

アジア視察報告＜１４＞

視 察 項 目	経済産業施策について
視 察 日 時	２０２４年１０月２７日（日） 午後４時００分～５時００分
視 察 先 名	華強北（ファーチャンベイ）
説 明 者	現地ガイド
担 当	山田 瑛理

【華強北（ファーチャンベイ）について】

華強北（ファーチャンベイ）は、深圳市にある有名な商業地区で、電子製品の卸売・小売市場として広く知られている。その規模は世界最大級で、「電子製品の楽園」とも称されているとのこと。

ここでは、スマートフォン、タブレット、コンピューターの部品、カメラ機器等、あらゆる種類の電子製品やパーツが揃っており、カスタムメイドや組み立ても可能。

近年、華強北はスマートホーム、自動運転技術等の新しい技術製品の分野にも進出しており、電子製品市場を牽引している。

【主な調査内容】

華強北が電気街として発展した背景については、以下の通りである。

１．地理的な優位性

華強北は深圳の中心地に位置し、交通の便が良いため、多くのビジネスマンや観光客が訪れやすい環境にある。また、深圳は香港と近接しているため、国際貿易の窓口としても機能しており、電子部品や製品の輸出入がスムーズに行われやすい環境であることにもその優位性がある。

２．深圳の経済特区政策

深圳は中国初の経済特区として指定され、外国からの投資が活発に行われた。この政策によって、電子産業が急速に成長し、華

強北周辺には多数の電子関連企業や工場が集まり、電子部品や製品の供給がしやすい環境が整えられた。

3. サプライチェーンの集積

深圳には多くの電子部品メーカーや組立て工場があり、部品の製造から製品の組立てまでのサプライチェーンが短く、迅速に対応できる点が強みである。これにより、華強北は「ものづくり」の拠点としての地位を確立した。

4. 流通の効率性

華強北の市場では、多くの卸売業者が集まっており、即座に部品や製品を仕入れたり交換したりできるため、製品の流通が迅速かつ効率的に行われている。このため、最新の製品やパーツが手に入りやすく、電子製品の需要に応えるためのスピード感が、他の地域に比べて高いことも起因する。

これらの要素が結び付いて、華強北は電子製品の一大集積地となり、世界的にも有名な電気街へと発展した。

【華強北の役割について】

現在の華強北は、単なる「電気街」を超えた多機能な都市として、いくつかの重要な役割を担っている。

・電子部品とガジェットの中心地

従来の電子製品や部品の販売は依然として強みであり、世界中から商人や技術者が訪れて、最新の部品やガジェットを調達している。最新のスマートフォンやドローン、VRデバイス等も迅速に手に入る場所として、電子製品の中心地としての地位を維持している。

- ・スタートアップとイノベーションの拠点

華強北は、起業家やエンジニアが新しい製品を試作したりプロトタイプを開発したりする場にもなっている。特に、安価で迅速なプロトタイプの作成が可能で、製品開発サイクルを短縮できるため、ハードウェアスタートアップにとって理想的な環境となっている。

- ・A I や自動運転技術等の次世代技術の市場

華強北では、A I 技術や自動運転関連の製品・パーツも扱われるようになり、新しい技術や製品を試す場としての役割が増している。深圳市全体がスマートシティ化を進める中、華強北はその中核として、次世代のテクノロジー市場を牽引している。

- ・観光地としての魅力

華強北はそのユニークな街並みや活気ある市場の風景から観光地としても人気があり、観光客がその活気を楽しみつつ、お土産として電子製品を購入する姿も見られる。

- ・グローバルな電子産業ネットワークのハブ

華強北には、海外からのバイヤーが定期的に訪れており、国際的な電子産業の取引拠点ともなっている。これにより、華強北は電子業界のグローバルなハブとして、情報や技術の交流の場ともなっている。

このように、華強北は「電気街」を基盤に、電子産業やテクノロジー分野の革新を支える街として発展し続けており、多様な役割を担う街としての位置付けを強化している。



電子的な看板が並び観光としても魅力ある街並み



パーツごとにブース展開



対面形式で顧客のニーズに対応するブースが並ぶ



視察する議員団の様子

【質疑・応答】

Q 1 : 人々は何を求めてこの街に来るのか。

A 1 : ここに来れば、電子部品はなんでも揃う。一大電子製品とテクノロジーの市場として、多くの人が訪れる。

Q 2 : どのようなトレンドなのか。

A 2 : 今は圧倒的に携帯の電子部品。自分の好みに合わせてデバイスをカスタマイズできる。以前は、テレビやラジオの電子部品が並んでいた。

Q 3 : 外国人の姿が多くみられるが、国籍は。

A 3 : アフリカ、東南アジア、ブラジル等が多い。

この日も多くの外国人で
賑わっていた



【総括】

まず、その活気に圧倒される。まさに世界最大の電気街。日本でいう秋葉原に近いところがあるようにも思うが、スタートアップやイノベーションの拠点としても発展している華強北は、今もなお周辺の企業や工場・事業と絡み発展を続けている。

そして時代の変化とともに柔軟に対応ができているところも、現在において電子製品市場を牽引し続ける事ができている要因だと考える。

そこに集まる外国人の国籍にも特徴を感じた。おそらく、東南アジアやブラジル等の新興国では、電子機器や部品需要が高まっていると推察される。そういった国の人たちにとっては、コストパフォーマンスの高さとここに来ればなんでも揃う利便性の点においても理想的な仕入れ先だと言える。また、多国籍なバイヤーやサプライヤーが集まるため、国際的な取引を行う際のネットワークを構築しやすいところも挙げられる。

華強北は国際的なテクノロジーとビジネスのハブとして機能している街だと言える。

川崎市においてもスタートアップやイノベーションの取組は重要であり、その発展に大切な熱量をこの街から学ぶことができた。